



高島幼稚園だより

令和 8 年 1 月号
板橋区立高島幼稚園
板橋区高島平 2-1 8-1
TEL 03-3934-5848
園長 井上 朋子

保幼小接続・小中一貫教育「高島なかよし通り学びのエリア」
(高島幼稚園・高島第二小学校・高島第二中学校)

高島幼稚園
ホームページ



50周年
キャラクター
「たんたん」



個別最適化と協働的な学び

園長 井上 朋子

あけまして、おめでとうございます。

今年は、午（うま）年です。何事に挑戦してもうまくいきそうな気がします。走る姿が優雅で力強い馬のように駆け抜けていきたいですね。

年末年始は、どのように過ごされたでしょうか。お子さんとゆっくりご家庭で過ごされた方、家を離れてお子さんと一緒にお出かけした方、様々にいらっしゃると思います。少しでもお子さんと楽しい時間を過ごすことができましたでしょうか。お互いにやりたいことはそれぞれありますから、うまくいかなないこともあるかと思えます。

さて、昨年のニュースで耳にしたのですが、ノーベル賞に輝いた坂口志文さんの話に、なるほどと思わずにはいられませんでした。それは、スウェーデンの日本大使館の祝賀会での英語のスピーチでしたが、「よい科学者であるためには、ドアと橋が必要だと言える。時には、ドアを閉めて自分の興味のあることに集中し、時にはドアを開けて橋を渡り、社会や他の人々と交流しなければならない」という内容でした。これは、まさに「個別最適化」と「協働的な学び」につながる話だ、と感じました。やはり、根本的に大切なことは、ノーベル賞をいただく方にも通じるものなのだと思います。

冬季休業中、幼稚園で過ごす「にこにこクラブ」は、日数は少なかったですが、利用する子どもたちは元気に過ごしていました。保育中とは違う遊具があるため、家庭の中で過ごすような雰囲気の中で、やりたいことを見つけては様々なモノと関わっています。私が偶然見かけた時は、カードゲームやパズルをしたり、ホールで走ったり、かくれんぼをしたりしていました。一人で集中してモノに触れて操作を楽しみながら色や形に気付いたり、友達とやりとりを交わしながら遊びに参加したり協力したりして遊びを楽しんでいます。時には、自分の意にかなったことばかりではありませんが、自分をコントロールしながら遊ぶ姿も見られます。子どもたちの様子から、「個別最適化」と「協働的な学び」の芽を育てている様子を感じられ、何気ない日常の中に様々な学びがありました。その傍らには、支援員の先生方の温かいまなざしや支えが必ずあることは言うまでもありません。



3学期は、今までの総まとめであり、次へのステップを刻む時期です。これからも、一人ひとりの特性や発達に合わせて主体的に学ぶことや、多様な他者と協力し、新たな価値を創造する学びを大切にしながら、子どもたちの成長を見守っていきたいと思います。